

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	あげお	種別：	施設入所支援
代表者氏名：	瀧本 勉	定員(利用人数)：	100 名
所在地：	〒 362-0011 埼玉県上尾市平塚820	TEL	048-771-0537

③評価実施期間

令和 6 年 4 月 1 日(契約日)～令和 7 年 3 月 5 日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○利用者の権利擁護・安心で安全な支援活動に向け、園長等の巡回を通じて意識を高めている

利用者の権利擁護に重点を置いて配慮をし、安心で安全な支援活動の提供に日々努め、現場の状況確認・把握を的確に行い、施設が抱える課題等を明確にして改善に向けて対応を進めている。園長・副園長が施設内を巡回して利用者の様子や状況、職員の支援活動等を各自の目で見て確認し、支援がさらに良い方向へと展開するよう努めている。利用者からの意見や要望等を聞き、職員の支援活動が支障なく進むよう職場環境等に注意を払い、危険や事故の要因等に配慮している。日々の巡回の中から「気づきのヒヤリ」という視点が生まれ、職員間で共有することで利用者の安心安全な生活につながっている。

○利用者状態を丁寧に把握し、利用者本位のきめ細やかな支援、利用者全員が参加する日中活動、専門性の高い食事支援につなげている

面談等から利用者の状況及び要望を把握し、利用者本意のきめ細やかな支援と、日中活動の充実が図られている。作業種は多岐にわたり、工程の細分化で、数える、シールを貼る、計量するなどの自助具も活用して、利用者のできることを増やしている。毎週、午前と午後の予定表を作成し、利用者の積極的な参加で生活リズムを整えている。生活面の支援においては、利用者の高齢化や重度化が顕著となり、食に関する課題が増えたことから「あげお食事支援検討会」を立ち上げ、進行フローチャートに基づいて利用者全員に食事に特化したアセスメントからリスクを判定し、その後はリスク別支援進行フローチャートに沿って課題を明確にし、歯科医師や言語聴覚士による指導・助言につなげ効果を上げている。

○高い専門性を備える職員組織として、地域に役立つ知識や技術が蓄積され、地域にも還元されている

事業所の資格取得支援制度の後押しもあり、当施設には45名の国家資格取得者が働いている。事業所の運営に関わる職務分掌、役割票のわかりやすさは、運営の透明性の確保につながっている。また、作り込まれた個別支援計画のフォームと内容、各種マニュアルの整備は、支援の積み重ねに貢献している。さらに、法人の重点目標でもある「重度障害者の受け入れ」に関連した動きとして、施設に蓄積された支援の専門性を活かし、「強度行動障害支援者研修」の企画実施を県から受託し、民間に広める役割も担っている。

◇特にコメントを要する点

○個別支援計画に対する変化の詳細の記録をベースにし、支援計画の内容を利用者に伝える工夫に期待したい

個別支援計画は担当者を中心に会議で評価・検討し、利用者と家族に提示して了解を得ている。どのような働きかけを行い、どのように変化したかについての詳細を丁寧に記録に残し、会議等で職員が共有している。利用者の個別の課題から目標を設定しており、目標達成までの過程や小さな兆しを、利用者と職員が共に喜べる環境を作ること、さらに意欲的な生活につながり、良い効果を生むと考えられる。また、様々なコミュニケーション手段（イラスト、絵画、写真、動画等）を用いて個別支援計画の内容を利用者に伝える工夫に期待したい。

○障害者の地域移行を後押しする事業について、さらなる研究、学びを深める取り組みに期待したい

障害者の方々の地域での生活の支援、地域移行については、20年前から一早く取り組み、様々な経験を重ねながら、現在、数か所のグループホームおよびそのサテライト施設を運営している。障害者の高齢化や重度化が進むことと合わせて、新しい権利意識を身に付けられた人材の確保などが求められる中、今後の展開には厳しい現状も認識されている。強度行動障害支援者研修なども手掛ける事業所として、グループホーム事業の検証とともに、障害者の地域移行を後押しする事業について、さらなる研究や学びを深める取り組みを期待したい。

○利用者・職員の生命を守ることに重きを置いた対応を進めており、危機管理・防災対応の充実に向けたさらなる取り組みも進められたい

自然災害や感染症に関する事業継続計画を整え、利用者の安心で安全な支援活動を支障なく進められるよう定期的な避難・防災訓練や炊き出し体験等を実施し、利用者・職員双方の危機抑止に向けた取り組みを展開している。ヒヤリハットに対する職員の意識を高め、気づきのヒヤリという観点からの危機管理を図っている。事業継続計画に沿って、様々な条件のもとでBCPの実践を試行し、利用者及び職員から挙げられる今後の防災対応に活かせる見直しや対応策の検討等もさらに進められたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

利用者の権利擁護・安心安全な施設運営を継続する上で、第三者機関による視点で、改めて点検することができた。

施設の持つ強みと弱みを意識する機会にもなり、今後もサービスの質の向上に反映させ、そのためには職員一人ひとりの意識への働きかけも行っていきたいと考えている。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり